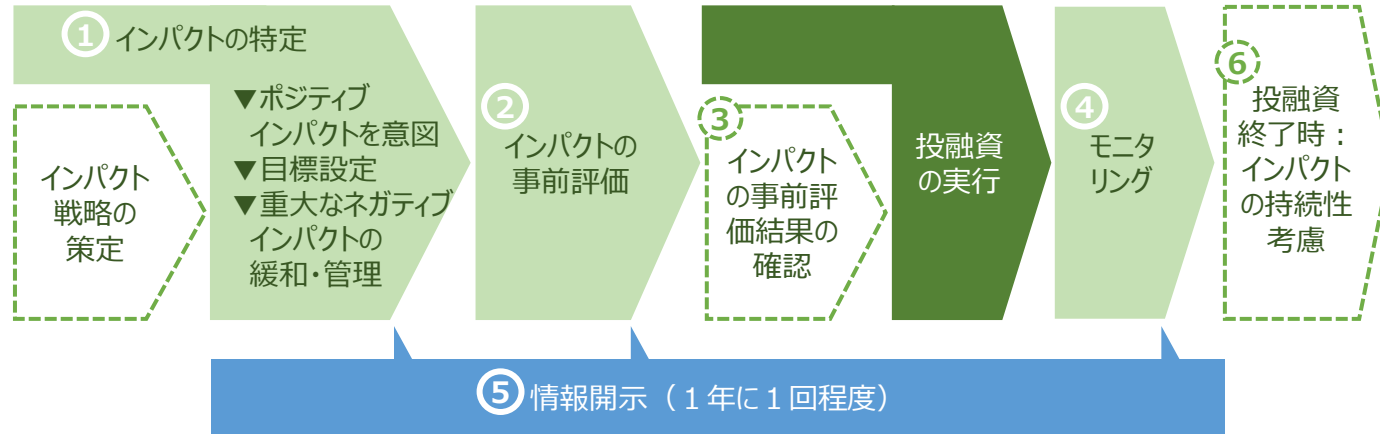

「グリーンインパクト評価ガイド（仮称）」 論点に関する補足説明資料

2020年11月5日
環境省

「グリーンインパクト評価ガイド（仮称）」論点整理の進め方案

- 「グリーンインパクト評価ガイド」の内容の整理にあたっては、「**基本的考え方**」で整理した「**個別の投融資におけるインパクトファイナンスの基本的流れ**」に基づき、各ステップで参考にできるフレームワークと評価指標を例示してはどうか。
- 例示にあたっては、**A)企業の多様なインパクトを包括的に把握するもの（インパクト包括型）**と、**B)プロジェクトやファンドベース等で特定のポジティブインパクトを狙いにくいもの（インパクト特定型）**で区分し、それぞれについて特に有用と思われるフレームワークや評価指標を紹介してはどうか。



投融資のタイプ	①インパクトの特定*	②インパクトの事前評価	③事前評価結果の確認	④モニタリング	⑤情報開示
A. インパクト包括型	(現時点での案を次のスライドに整理)				
B. インパクト特定型					

* 特に「A.インパクト包括型」については、企業全体での多様なインパクトを包括的に把握する観点から、①のインパクトの特定に「事業評価」が含まれる。

インパクトファイナンスで参考にできるフレームワークと評価指標

- 「**基本的流れ**」に沿ったインパクトファイナンス実施時に各ステップで参考にできるフレームワークと評価指標は以下のようなものが例として考えられる。
- 「②インパクトの事前評価」と「④モニタリング」については、重要テーマ（気候変動、サーキュラーエコノミー、生物多様性等）について「特に参考にできる情報」として最近の世界的な取組や動向を紹介してはどうか。

投融資のタイプ	①インパクトの特定	②インパクトの事前評価	③事前評価結果の確認	④モニタリング	⑤情報開示
A. インパクト包括型	<div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; text-align: center;"> UNEP FIのフレームワーク（ポジティブ・インパクト金融原則、モデルフレームワーク） </div>				
	分析ツール（インパクトレーダー）		3段階の分類（PI, PI Transition, Not PI）		
B. インパクト特定型	<div style="border: 2px solid yellow; padding: 5px; text-align: center;"> IMPのフレームワーク（"How enterprises manage impact" "How investors manage impact"） </div>				
	「インパクトの5側面」（What, Who, How much, Contribution, Risk）を参考にしながら独自に特定		ABC（Does or May cause harm/ A ct to avoid harm/ B enefit stakeholders/ C ontribute to solutions）のインパクトタイプを活用		
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「基本的考え方」の参考資料に記した「日本国内の事業におけるインパクトニーズの特定について」が参考になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・IRIS評価指標カタログ、GRI、WEFによる評価指標など。NGOや政府等が公開するデータや評価も可能か。気候変動やサーキュラーエコノミーなど重要テーマについてはCDP、Circulyticsなど補足的に活用できる指標を紹介。 		<ul style="list-style-type: none"> ・②で用いた指標を継続的に使用。 ・投融資先から必要な情報が得られない場合は積極的にエンゲージメントなどを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・②と④の指標・④についてはその実績を開示。 ・インパクトの管理体制についても開示を求める。

参考にできる評価指標の特性と留意点について

- 「参考にできる評価指標」の例示にあたっては、その性質を十分に説明する必要があると考えられる。
- 以下に、各評価指標を使用するにあたって理解すべき特性と、留意点を整理した。

	IRIS評価指標カタログ	GRIスタンダード	SASB	カテゴリーに特化した評価指標（CDP、Circularity等）
指標の提示形態	<ul style="list-style-type: none"> ・過去案件等で用いられた指標を収録し、自由に選択できる「一覧」の形で提供 ・指標は今後も随時追加される ・IRIS+ (*) 内にプリセットされたものと同内容プロジェクトについては使用すべき指標が自動的に提示される 	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境」「社会」「経済」に関して、事業領域横断的かつ網羅的に指標群を提供（例えば環境はGRI300番台：GRI304「生物多様性」GRI305「大気への排出」など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業領域別に、特に重要・関連があるとされる内容について指標群を提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標のカバー範囲と提示方法は評価指標による
特性	<ul style="list-style-type: none"> ・指標カタログとして幅広い内容の指標を含む 	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチステークホルダーを対象としており、報告企業の財務的重要性のみならず社会的な重要性も意識 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標内容が事業領域の特性に直結 	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリーに精通した団体・イニシアティブが作成するため、当該カテゴリーに求められている内容を明確に示しやすい
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・IRIS+ にプリセットされていない案件の場合、一覧からどの指標を使用すべきかの判断が困難 ・指標一覧の内容に網羅性があるとは言えない 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業のサステナビリティ報告のためのリファレンスとしての性格を持ち、高度に網羅的なため、プロジェクトの評価での使用には留意が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境的・社会的な重要性からではなく、報告企業の財務的重要性から指標が作成されている ・事業領域別の指標であるため、事業横断的な案件の場合は別途検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、各種団体・イニシアティブが立案・策定中であり、項目も統一されていないため、評価指標の選定が難しい ・評価指標によっては内容が高度に専門的となり、データの収集が困難となる可能性が予期される

* GIINが提供する、使用を推奨する指標群がウェブサイト上で自動的に提示されるオンラインツール

参考にできる評価指標について

■ 資源循環に関連するもの例として、参考にできるとされる評価指標の内容の一部を記載。

※項目ごとの対応関係は類似のものを事務局の判断で分類・整理したものです。

IRIS「Pollution」「Waste」		GRI 301「原材料」 306「排水および廃棄物」		SASB「Management of Leachate & Hazardous Waste」「Recycling & Resource Recovery」		エレン・マッカーサー財団 「Circularity Outcome指標」	
番号	項目名	番号	項目名	番号	項目名	番号	項目名
O11346	廃棄物発生量:有害廃棄物			IF0201-09	有害化学物質総排出量 (Total Toxic Release Inventory (TRI)) 並びに河川・海洋への排出割合		
		306-4	有害廃棄物の輸送				
		301-1	使用原材料の重量または体積				
O14483	廃棄物:埋め立て処分されたもの	306-2	種類別および処分方法別の廃棄物	IF0201-17	焼却された廃棄物量、有害物質の割合、エネルギー回収に用いられた割合	Outputs 7a.	テクニカルサイクルに適した材料の outflow (質量ベース)のうち、埋立/焼却される廃棄物/副産物の割合
O15101	生分解性材料			IF0201-18	消費者に対して提供された(1)リサイクル(2)堆肥化サービスの割合 (消費者のタイプ別に)		
O16192	廃棄物:合計			IF0201-19	(1)リサイクルされた及び(2)堆肥化された原材料の量		
O16209	製品ライフサイクルの管理慣行			IF0201-20	回収された電子廃棄物量、及びリサイクルを通じて還元された量		
O16709	廃棄物生成量:合計						
O17442	廃棄物:非有害廃棄物						
O17920	削減した廃棄物						
O18357	廃棄物:焼却されたもの						
O18843	廃棄物:その他						
O19847	廃棄物:堆肥化されたもの						
						Outputs 7g.	リユースされる製品について、製品寿命に達するまでの平均使用回収
						Outputs 7h.	生産するエネルギーのうち再生可能エネルギーの割合
						Outputs 7i.	年間総エネルギー生産量
PD9364	リサイクル材料の使用率	301-2	使用したリサイクル材料			Inputs 6a.	テクニカルサイクルに適した材料の製造工程への投入量割合
		301-3	再生利用された製品と梱包材			Inputs 6b.	バイオロジカルサイクルに適した材料 (再生可能) で使用中に消耗/劣化するもののうち、以下が原材料/材料の投入量に占める割合
						Inputs 6c.	事業活動に使用するエネルギーのうち再生可能エネルギーの占める割合

アウトカム (Outcome) とインパクト (Impact) の定義について

- 様々な団体・イニシアティブにより定義に揺らぎが見られるものの、概ね、「インパクト」は「アウトカム」に比べてより上位ないしは長期的な概念として捉えられているようである。
- 本TFのインパクト投融資の文脈では、投融資による「インパクト」を具現化・可視化するため、投融資の「アウトカム」を測定・評価するという捉え方でよいのではないか。なお、次スライドに「アウトカム」と「インパクト」の関係性を整理した。

IMP

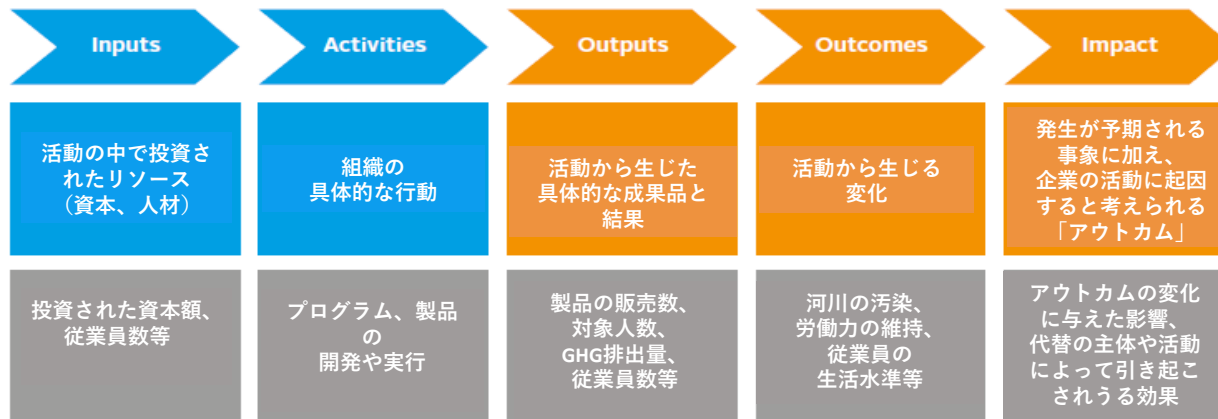
- ・用語集 (Glossary) の中で「アウトカム」と「インパクト」の語に定義の揺れが生じていることを指摘。
- ・IMP自身は2020年公表の3ドキュメント (Impact Monetisation, Impact Ratings, Standardisation in Impact Management) の中で「アウトカム」は企業等の活動によって生じた社会・環境・経済面での福利 (well-being)、「インパクト」は意図した・意図せざる / ポジティブ・ネガティブ / 全体的・部分的 / を問わず、企業等によって引き起こされたアウトカムの変化、として整理している。

PRI

- ・Understanding the Impact of Your Investments (2013)の中で、下図を示し、「インパクトそのものの測定は投資家にとって困難を極めるため、インパクトを推測するためにアウトカムの追跡するのが通常である」と記載。

GIIN

- ・Impact Measurement in the Clean Energy Sector (2016)の中で、投融資の全体のインパクトをよりよく理解するために投融資のアウトカムを測定・評価する、という内容を記す。



開発援助・評価における定義

(JICA開発援助・評価用語より) :

アウトカム (outcome) : プロジェクトのアウトプットによって達成される短期的、中期的および長期的な効果。なお、組織によって長期的な効果については「インパクト」と呼んでいるところもある。

インパクト (impact) : プロジェクトの実施による長期的、間接的效果や波及効果。予期しない正・負の効果も含む

アウトカム (Outcome) とインパクト (Impact) の定義について

- 本タスクフォースでの定義における「アウトカム」と「インパクト」の関係性を、考えるる投融資の事例から整理した。

インパクトの定義：ここでいう「インパクト」とは、組織によって引き起こされるポジティブ又はネガティブな環境、社会又は経済に対する変化のことをいい、直接的な成果物や結果（アウトプット）ではなく、それにより環境、社会又は経済面にどのような違いを生み出したかという効果（アウトカム）を指す。（「基本的考え方」p.8）

例	(アウトプット)	アウトカム		インパクト領域※
			評価指標・KPI例	
再生可能エネルギー発電事業	再生可能エネルギー発電所の建設	温室効果ガス排出削減	回避された温室効果ガス排出量 (t-CO2e/年) 等	気候
環境に配慮した販売容器の開発	生分解性ポリマーを使用した容器の開発と切替	非生分解性プラスチックの使用削減	自社製品に使用した生分解性材料の量 等	資源効率・安全性
使用済み携帯電話の回収・リサイクル・再販	リサイクル材料を使用した携帯電話の販売	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物削減 バージン素材の使用削減 	<ul style="list-style-type: none"> 回収したりサイクル材料の量 携帯電話の製造に使用するバージン素材の量 携帯電話の製造に使用したりサイクル材料の量 等 	資源効率・安全性
生態系を意識した高速道路	高速道路を跨ぐアニマルブリッジの建設	絶滅危惧種の保護	IUCNレッドリスト並びに国内保全種リスト対象の生物種数 等	生物多様性と生態系サービス

※ 例にとったインパクトが発揮される領域としてUNEP FIのインパクトカテゴリーの中で該当するものを記載